

大崎から悠久の地 平泉へ

世界文化遺產・平泉紀行

2011年6月

岩手県平泉は、大崎市二

歴史的に所縁のある街。

1時間30分(70km)のドライブコースも、もつと魅力あるものになるはず。



▲平安時代の作庭様

「前九年合戦」。安倍氏が滅びたの戦いのとき、藤原清衡の父、経清は安倍氏に加担していたため殺されたが、清衡は母が敵方の清原武貞と再婚したため命を助けられた。のちに清衡は家督相続争いの「後三年合戦」に巻き込まれるが、またしても奇跡的に生き延びる。



▲『中尊寺』山内の覆堂の中には、眩いほどの輝きを放つ金色堂が、大切に保管されている。

義経討伐から奥州藤原氏の終焉

時は平安時代末、兄・源鶴朝と対立した源義経は、藤原氏三代秀衡を頼り奥州へ赴く。その逃亡の途中に通ったという伝説が残るが、現在の大崎市鳴子温泉。そもそも鳴子という地名は、旅の途中にうまれた義経の子が産声を上げた「啼子（なきこ）」が転じたものとも言われている。無事平泉に身を寄せた義経だが、頼朝は奥州藤原氏に義経の引渡しを要求。秀衡の

して奥州藤原氏の
じることとなつた。



伊藤 康志 大崎市長

平泉町と大崎市は歴史的に深い縁がある街です。まずは黄金文化と日本で最初の産金地・大崎地方としてのつながり。また義経が平泉に向かう途中、鳴子でうまれた子を産湯につけたと言われる義経伝説。さらに松尾芭蕉が平泉から岩出山、鳴子を通り中山越えをした奥の細道のつながりもあります。この縁ある平泉



菅原 正義 平泉町長

2011年6月、「平泉・仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」として、『中尊寺』・『毛越寺』・『觀自在王院跡』・『無量光院跡』・『金鶴山』が世界文化遺産として登録されました。争いのない平和な理想郷を目指した平泉の浄土思想が世界的に認められたことは、平泉町はもちろん、東日本大震災後の東

